

ぎぶんろうぞうぞう  
魏文朗造像

(北魏末)



木  
雞

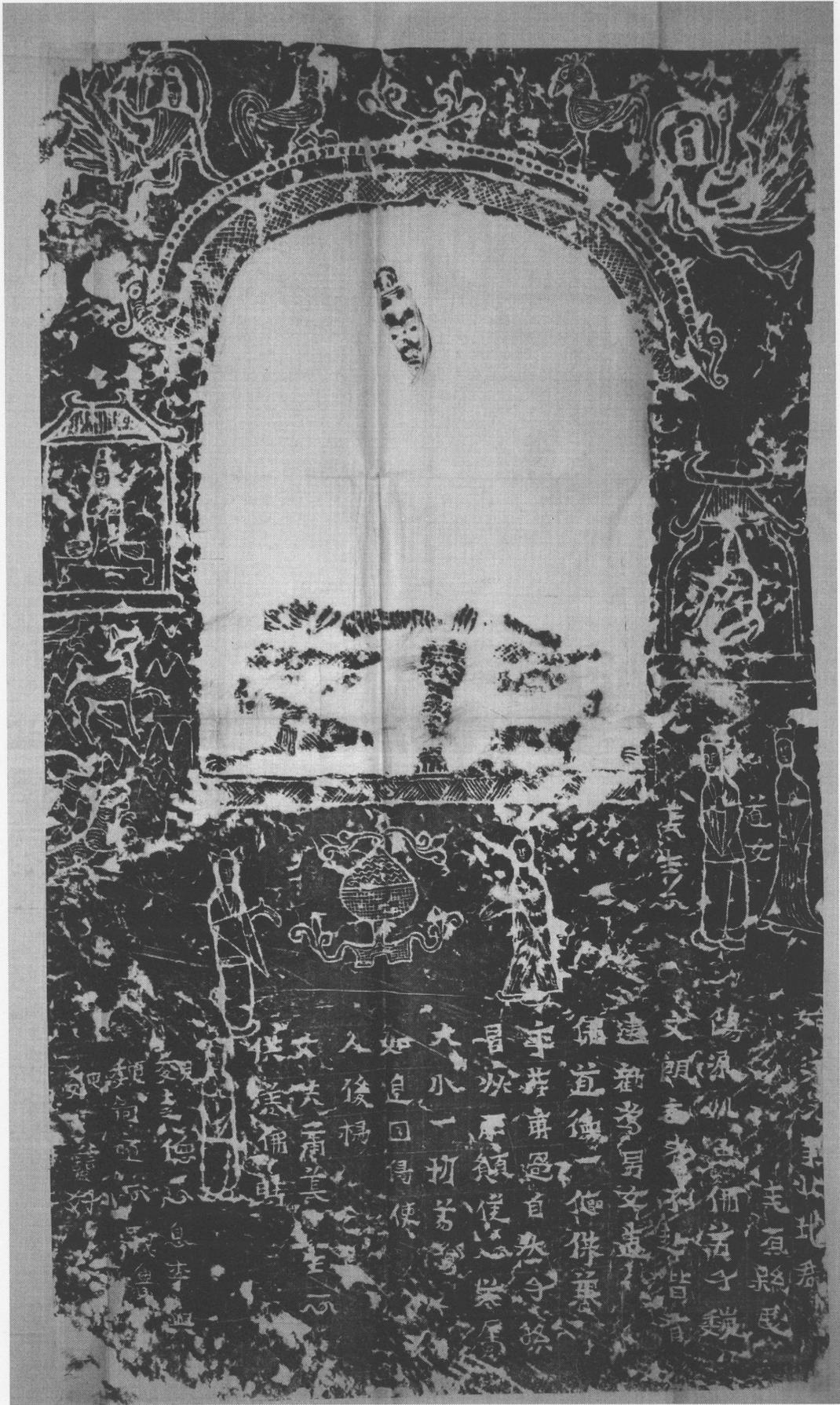
金石書画拾遺 (17)

魏文朗造像

木雞室

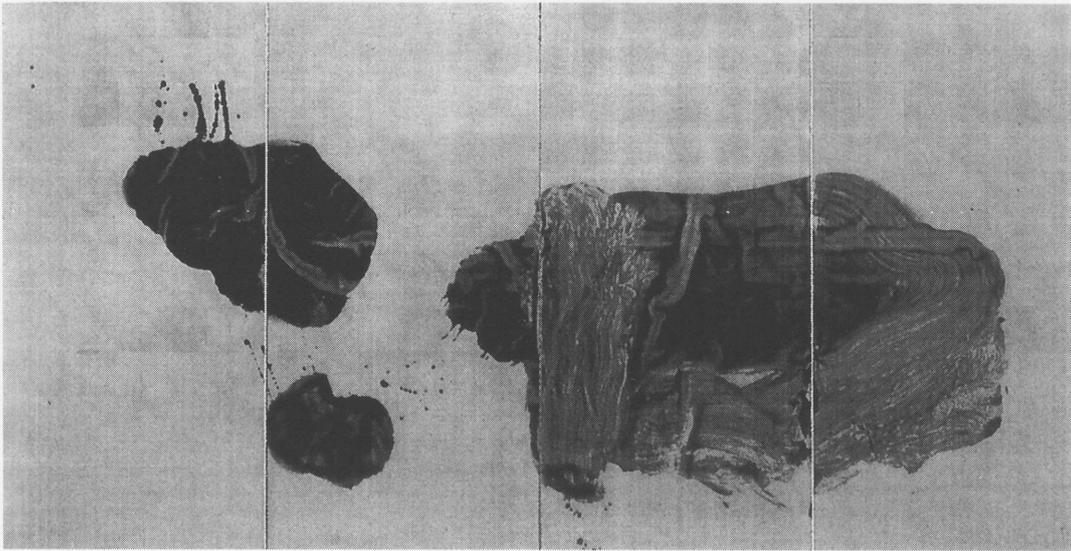
伊藤 滋

北魏末から東魏・西魏・北齊・北周時代にかけて、仏教の隆盛にしたがって多くの造像碑が建てられた。この造像記も陝西省耀県薬王院造像の一である。龍門の造像とは刻風や書風も異なる。仏像を刻した下方に、邑子名と人物像や簡単な造像記が刻されている。全体もいいが、その一部の文字と画像だけでも、十分に六朝芸術を味わうことができる。この簡単な線で構成された人物像などは、六朝明器として出土する俑そのままである。



此佛  
 文顯  
 遠新  
 佛道  
 率非  
 昌次  
 大小  
 如是  
 人後  
 夫爾  
 供養  
 親之  
 類何  
 如...

# 書道芸術院 創立発起人 (14)



「冲」四曲一隻 (166×312cm)

昭和40年 清荒神清澄寺蔵

## 森田子龍

1912 (明治45) 年〜1998 (平成10) 年。  
兵庫県豊岡市生まれ。本名・清。  
上田桑鳩に師事し、戦前の書芸術運動の中核をなす  
『書道芸術』誌の編集に携わった。

戦後、1947 (昭和22) 年。書道芸術院創立に参  
画し、翌年第1回書道芸術院展から第4回展まで審査  
員として活躍、1951 (昭和26) 年同志と共に書道  
芸術院を離脱、奎星会をも離脱し、書芸術革新の先頭  
を切って墨人会を結成、「墨美」誌を主宰した。それ  
を拠点に世界の美術界に「書あり」の一大運動を展開  
し、55年のヨーロッパ巡回展「現代日本の書・墨の芸  
術」展等々を企画し実践した。

自らは、美学者・井島勉の「単一なる線の運動を骨  
子とする造形芸術」なる書の定義を、さらに自己の実  
践と、久松真一からの禅の理論を結びつけ、「書は、  
文字を書くことを場として内のいのちの躍動が外にお  
どり出て形を結んだものである」として「書の独自性  
と限定性」を明快に論じ、その作品を世に問い現代の  
書芸術革新の歴史に大きな足蹟を印した。

文中敬称略 (名久井裕三記)

# 書のひろば

理事長 恩地 春洋

ダブリン文化人の反響を報告する。  
書の理解の深いのに驚いた。  
ご一読を。 恩地春洋

書道芸術―伝統的な日本の書道は、  
バランス、筆法、リズム、静寂の  
優雅な調和である。

文 アーミンタ ウォレイス  
訳 藤原 聖美

書道は線と形と空間とリズムの芸術である。動と静、表情の豊かさと沈黙を併せ持っている。文学が持つ認識力と絵画が持つ視覚的な迫力が結合している。物理的には正しい姿勢、精神的には、集中心が在る。筆が息を飲むような優美さで、ある時はおかしうて大声で笑うように紙の上をすばやく動く。書道の作品は、数分、時には数秒で仕上がる。文字は、たった1回で書かれてしまう。ずるい手直し、加筆、修正は許されない。無知な西洋人の目には、かなり不可解なことに見える。しかし、それでもなお、驚くべき表現の豊かさと喚起された世界があることは明らかだ。ダブリンのセントステファーズグリーンにある官庁のアトリウムで現在開催されている「日本現代書道展」は、このつかみどころのない芸術に近づき、自分のものとするめったに

## Strokes of enigmatic elegance



ない機会である。

最も尋ねてみたいという誘惑にかられた質問は、日本の書家は走り書きをしないのか、ということである。答えは、もちろん、する。メールアドレスや買い物リストを書き留める時、たいていの日本人は、ボールペンか何かでメモする。しかし、我々が「カリグラフィー」と呼ぶみごとに筆跡の書道は、現代の日本文化の過半数をしめる。小学生は低学年の時から基本的なことを教わる。そして、毎年、年の初めには、その年1年の願い事を書いた書き初めをするしきたりがある。日本では、誕生日の贈り物に、また年始のあいさつである年賀状、その他特別な機会に書作品を書く。

学生達は、さらなる上達をめざして、昔の有名な書家が書いたものを臨書する。日本人の多くは、大人になっても趣味として、書道を続ける。そして書道協会は、作品が確実に高い水準になるように最もすぐれた作品を書いたと

判断された書家に対して賞を与える。作品が賞賛される基準は、正確な文字の構成、筆使い、墨の濃淡、紙上でのバランスよい文字の配置である。直線だと強く、はっきりしたものになるし、曲線だと繊細で表情豊かになる。作品全体に関しては、文字の大きさも重要である。

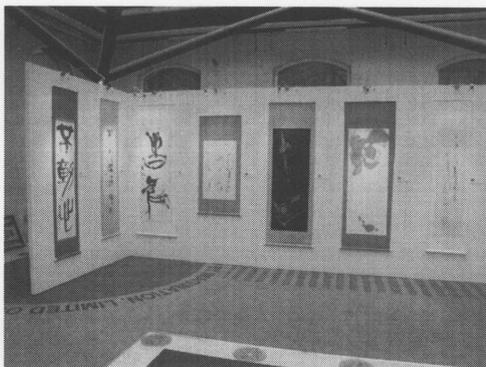
しかしながら、統一されたいわゆる「規定」の文字を書くという作業とはかけはなれた創作において、基本となるこのような教えを進んで取り込んできたことが、現代の書家を前例のない地位へと解き放った。

財団法人書道芸術院によって編成さ



れたこのダブリン展のカタログに目を通すと、高橋松延の「春」のような典型的な日本らしさを思い浮かべる繊細な金線細工のような作品から宮澤梅徑の機知に富んだ「すり切れたくつ」、

ジョン・ミロの絵の描写を思わせる加藤眺溪の「母と子」ロスコの匂いにする平岡千香子の「日の出」にまで及ぶ。  
(次号につづく)



< 会場風景 >

## 漢字 (二)

上妻華竹



第60回記念 上妻華竹書  
書道芸術院展出品作品

今年新春、大阪の近鉄百貨店で、毎日現代書関西代表作家展があり席上揮毫の担当となりました。今まで何度か体験させていただきましたが、なかなか慣れる事なく、毎回緊張します。

今年は期間中2時〜3時の1時間に三人の先生方が思い思いの揮毫をされました。観客から「お題」をもらい即興で書かれたり、揮毫担当の先生が飛び入りの先生と二人で一編の漢詩を交互に書かれたり、楽しいエピソードを披露しながら書かれる先生、大変楽しませてくれました。

ところが自分の揮毫となると楽しむどころではありません。でも見ていただく方には楽しんで欲しいと思います、いろいろ考えましたが、私とはかく人の前で喋るのが苦手なので必要最小限のお喋りで、用紙サイズを変えたり、筆の太さを変えたりして、一つの漢字の異なる表情を見てもらい、何とか揮毫を終えました。

知人から「慣れてきたネ」と言われ自分も「少しは慣れたのかな」と感じています。何度かの揮毫を経て席上揮毫は見る方も、書く方も楽しむべきだと思いました。

## 21世紀の書

### —私の主張—

## 前衛書 (二)

真下京子

中学校の書道部顧問が前衛書家で、「私も書いてみたい」程度で始めたのが、私が前衛の世界に足を踏み入れたきっかけであった。1962年・1964年、毎日前衛書展で「毎日賞」受賞。1964年「書道芸術院大賞」(当時は最高賞)受賞、24才の時である。用具用材の工夫をと、東京中の画材屋を探し回って得た賞であった。

思えばこの頃の東京では、美術館の作品の前で作家達が激論を交わし、作品への想いをぶつけ合っている場面にも度々出くわした。私まで身が熱くなるのを感じたものだ。また、雑誌「墨美」で紹介される国内外の作家の作品や対談からも大いに影響を受けた。

1945年から68年頃は敗戦後の芸術革新運動の気運が燃え盛り、日本の前衛書が海外で脚光を浴びだした頃である。欧米の美術とも交差し、華々しい展開を見せた頃でもある。

この現象が今、中国や韓国で起きていて、訪韓して実感した。今、中国、韓国が熱い!

比較すると日本の前衛書が沈静化しているようだ。今、改めて「書とは何か」「前衛書とは何か」を問い直すこと、そして作家は何を表現したいかを明確にすることが重要ではないだろうか。



第17回書道芸術院展  
「大賞」作品  
昭和39年

〔解説〕

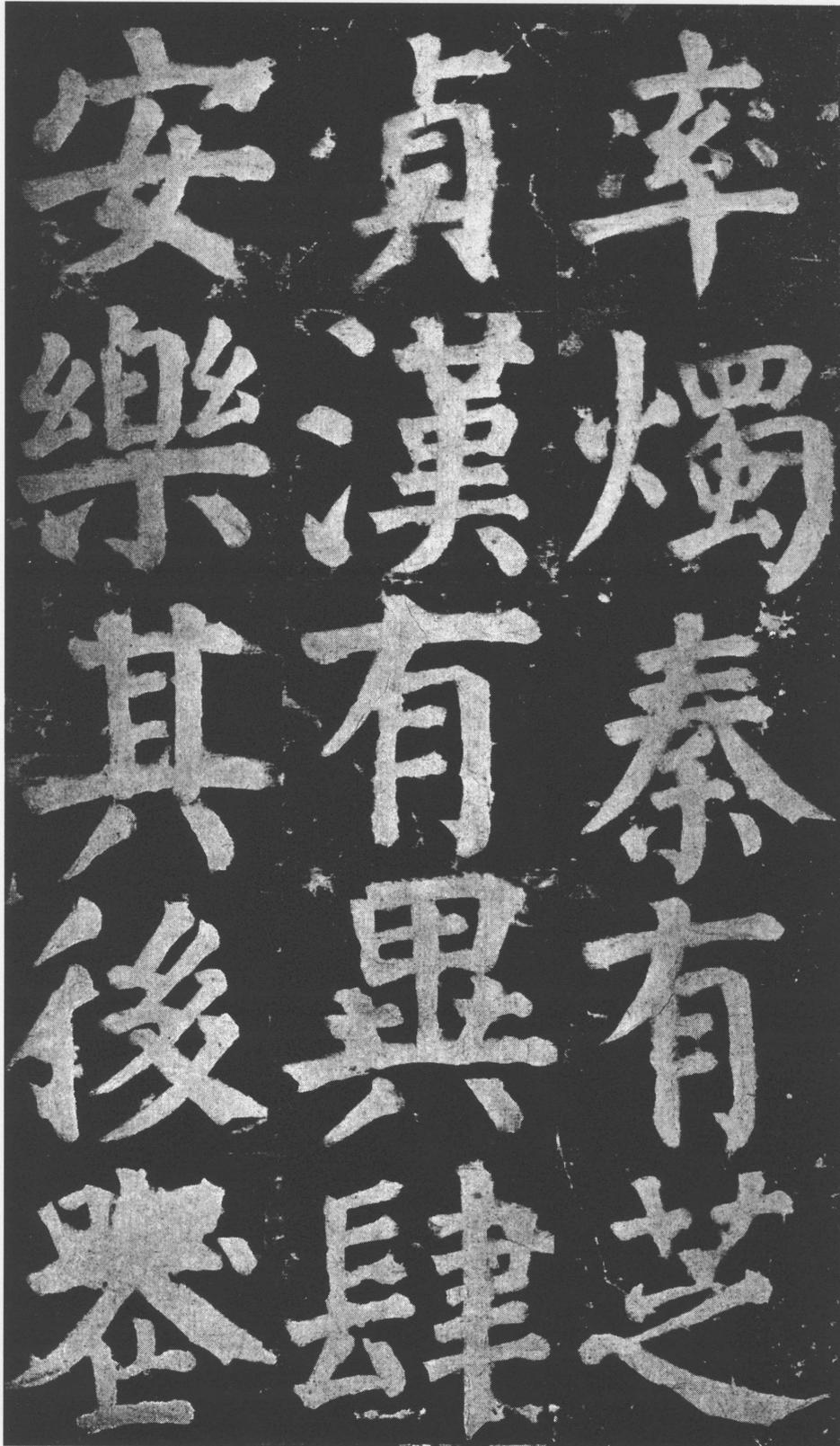
顔氏家廟碑の碑額は、李陽冰の篆書。唐の建中元年（780）。四面刻で（碑身両面の高さ239センチ、幅は123センチ、両側の幅は28センチ）両面は、各々24

行、毎行47字、両側は、各々6行、毎行52字で、顔真卿の独特の楷書体である。碑は西安の碑林博物館にある。（編集部）

注

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。（掲載部分以外は不可）

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
〇〇臨  
(押印のみも可)



率燭。秦有芝

貞漢有異肆

安樂其後喪

古筆鑑賞

38

かな研究部

香紙切(伝小大君)

②

あきごとにおほみ<sup>遠保見</sup>や人のく<sup>久流</sup>るのべは<sup>盤</sup>さが<sup>可</sup>  
のこと<sup>支</sup>や花をみるらむ<sup>支</sup>

あきのよをぎ<sup>可</sup>ふくかぜを<sup>支</sup>き<sup>支</sup>  
てよ<sup>支</sup>しとき

を<sup>者</sup>きは<sup>所</sup>そ<sup>可</sup>やあき<sup>可</sup>かぜ<sup>多</sup>ふ<sup>万</sup>き<sup>奈</sup>ぬ<sup>利</sup>なり  
こぼ<sup>本</sup>れ<sup>多</sup>やし<sup>多</sup>ぬ<sup>利</sup>る<sup>利</sup>し<sup>利</sup>ら<sup>利</sup>つ<sup>利</sup>ゆ<sup>利</sup>の<sup>利</sup>たま<sup>利</sup>

御屏風<sup>びよふ</sup>に<sup>多</sup>たび<sup>多</sup>と<sup>多</sup>は<sup>多</sup>つ<sup>多</sup>かり<sup>多</sup>き<sup>多</sup>

〈解説〉

香紙切は、線が感覚的で情感に富み、優れた表現をしているのにもかかわらず、文字を無謀といえるくらい勝手に書き、掲載図版の「屏風」の屏も決して正しいとはいえない。「あきごとにおほみや人……」のおは、女手の字にはとてもみえない。

だが、文字と文字を接近させたり重ねたり、意表を突く大胆な字組みと、華やかな円運動による連綿の、からみ合う線の集団が特に魅力となる。字形は大概丸くて平たい。

(編集部)

注 かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨

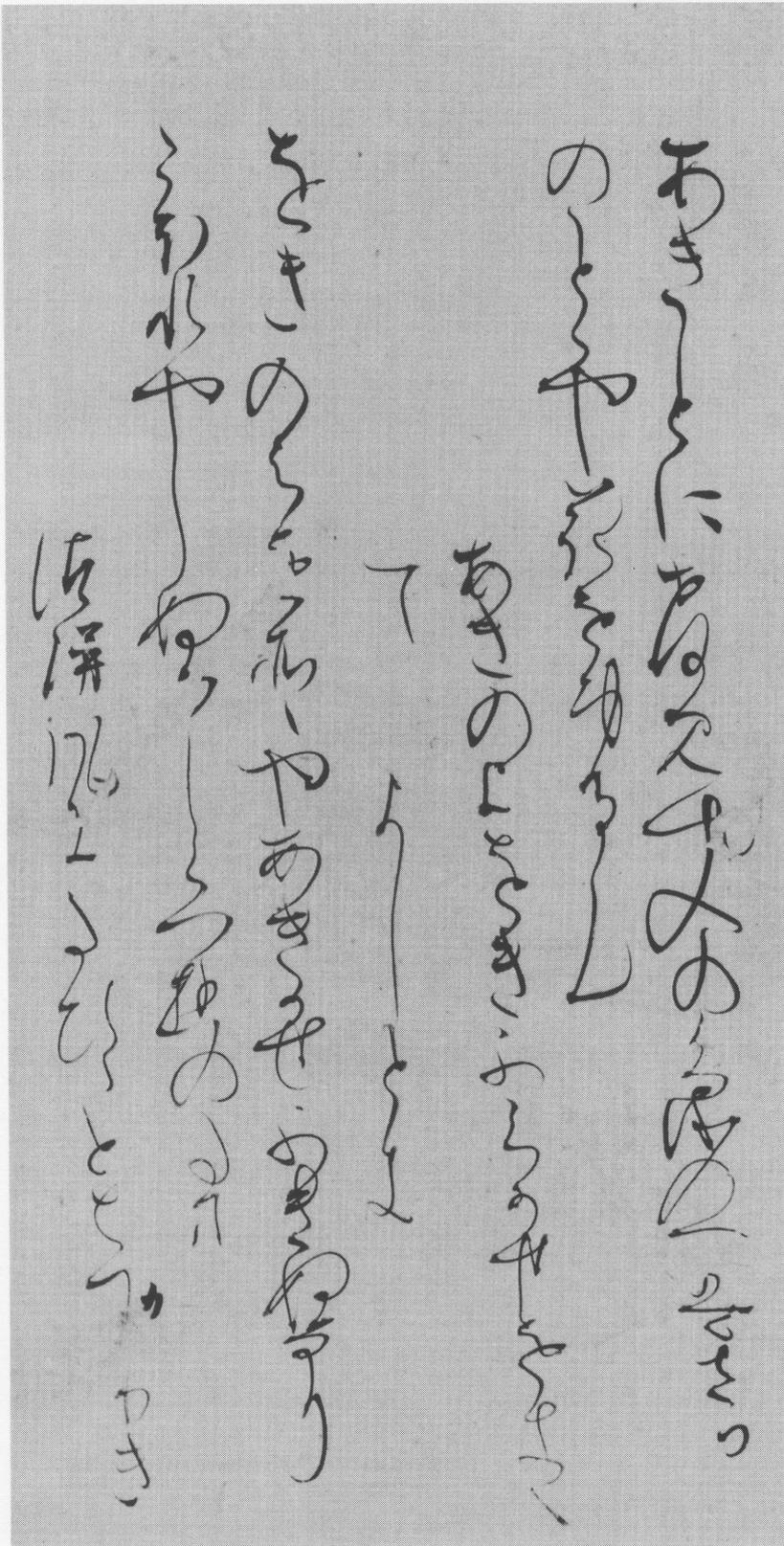
(押印のみ可)

用紙

・半紙普通判(料紙可)

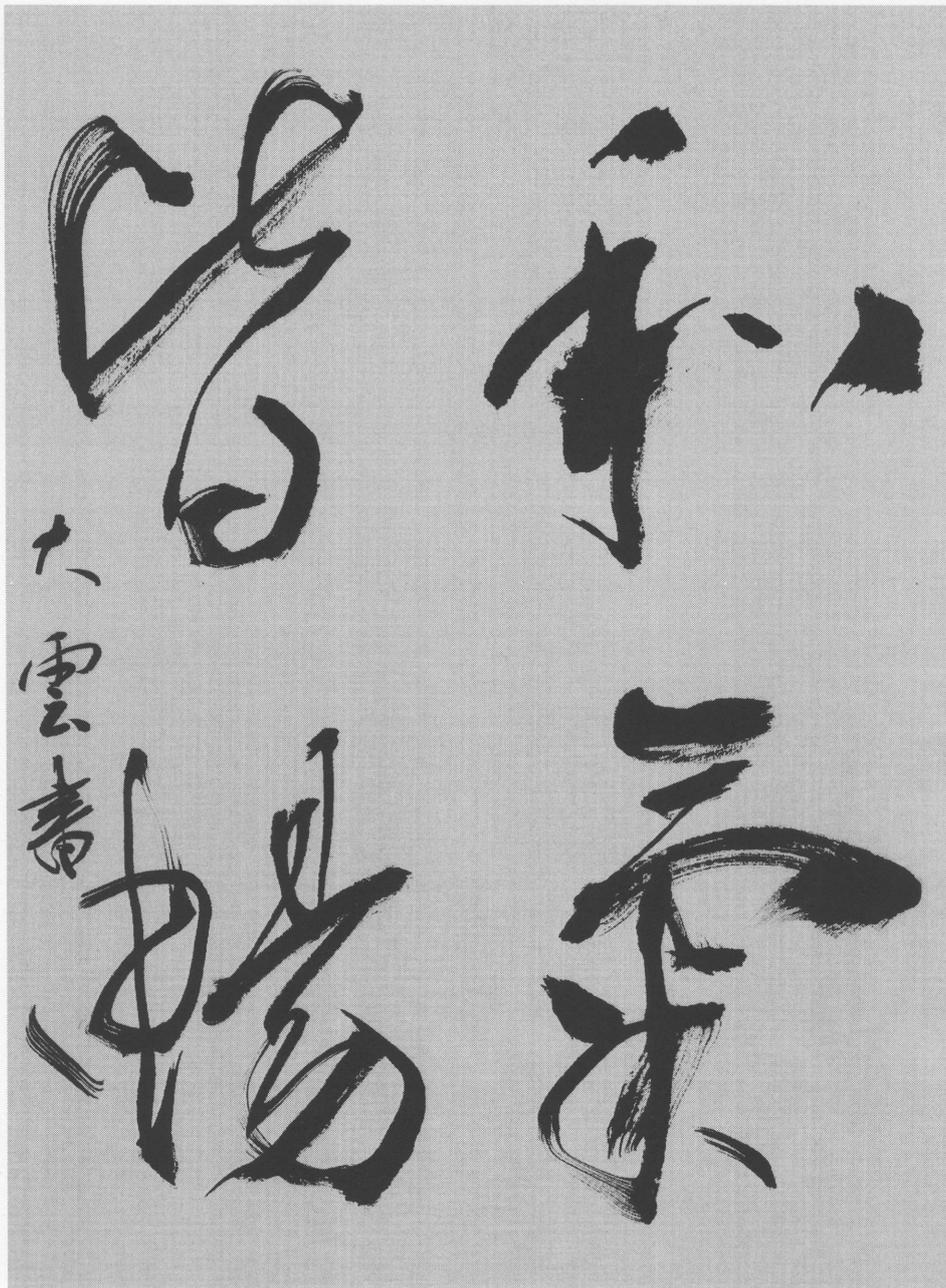
〈たて長に使用〉

・別紙を裁断して貼付は不可。



漢字規定 初段以上【六月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書



和氣皆暢 よみ(和氣皆暢ぶ)

書体||自由

### 習い方解説 (二)

辻元大雲

和氣皆暢  
(和氣皆暢ぶ)

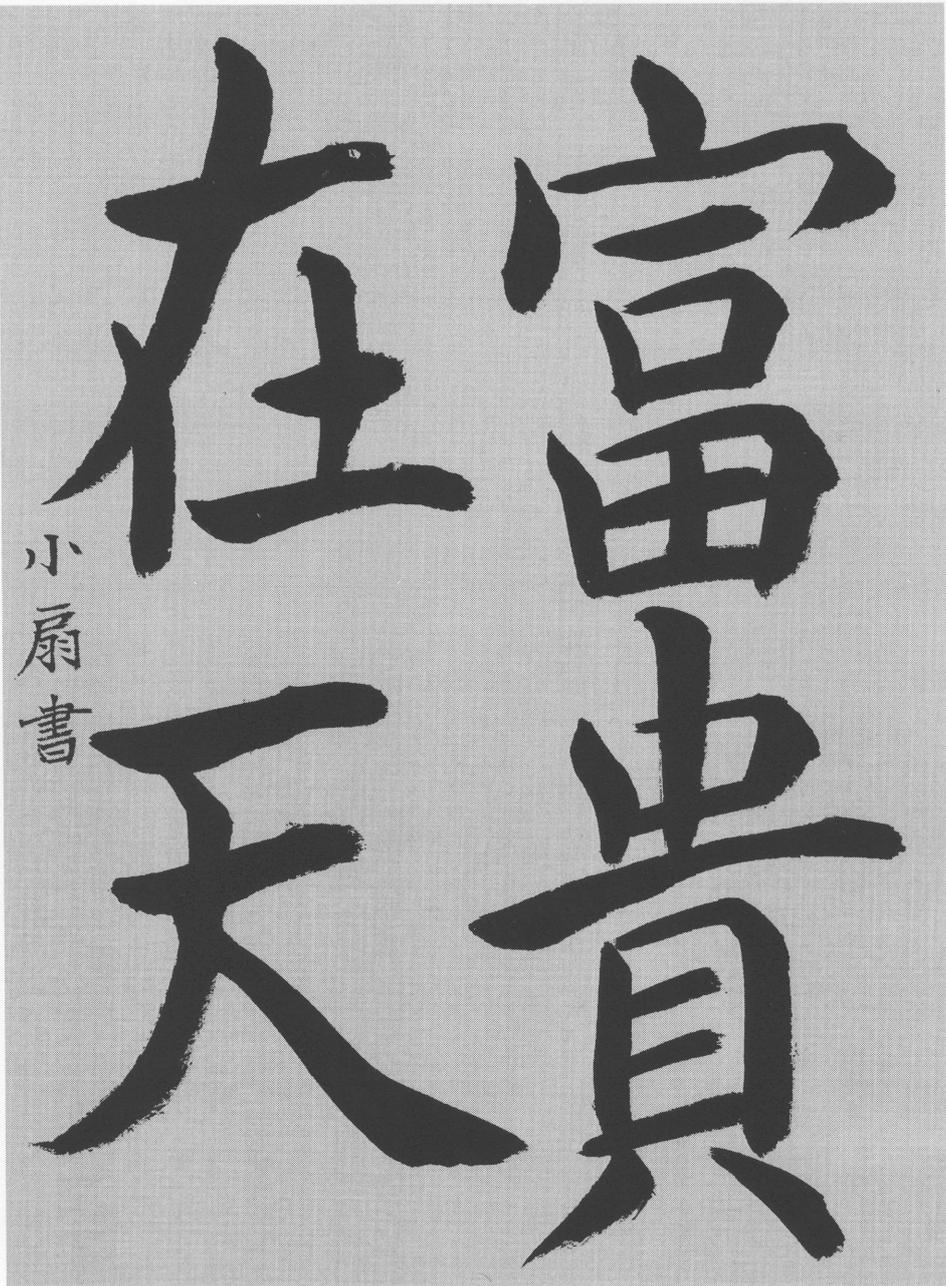
春の暖かな時節に合わせ、なごやかな句を選びました。草書を一部まじえ、やや硬めの白狸筆を使用しました。やや細身の線のリズムによる変化、動きある表現をねらっています。

行草書表現の場合、このリズムが大切です。活き活きた躍動的な表現には運筆のリズムを欠くことはできません。筆を持って動かすリズムは字形の変化や墨の潤濁の変化など、様々な要素により現れます。静かで落ち着いた楷書や隷書での表現、微妙な動きを見せる行書、更に大きなリズムを醸す草書表現など様々です。

何よりも揮毫する人の呼吸が反映されます。用具用材の工夫、幅広くいろんなものを使い分けるなど大いに多様な表現を楽しんでください。

漢字規定 秀級以下【六月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

小伏小扇選書



富貴在天 よみ(富貴は天に在り)

書体Ⅱ楷書

### 習い方解説 (二)

小伏小扇

富貴在天

(富貴は天に在り)

富貴は求めて得られるものでない、死生も天命に属する。

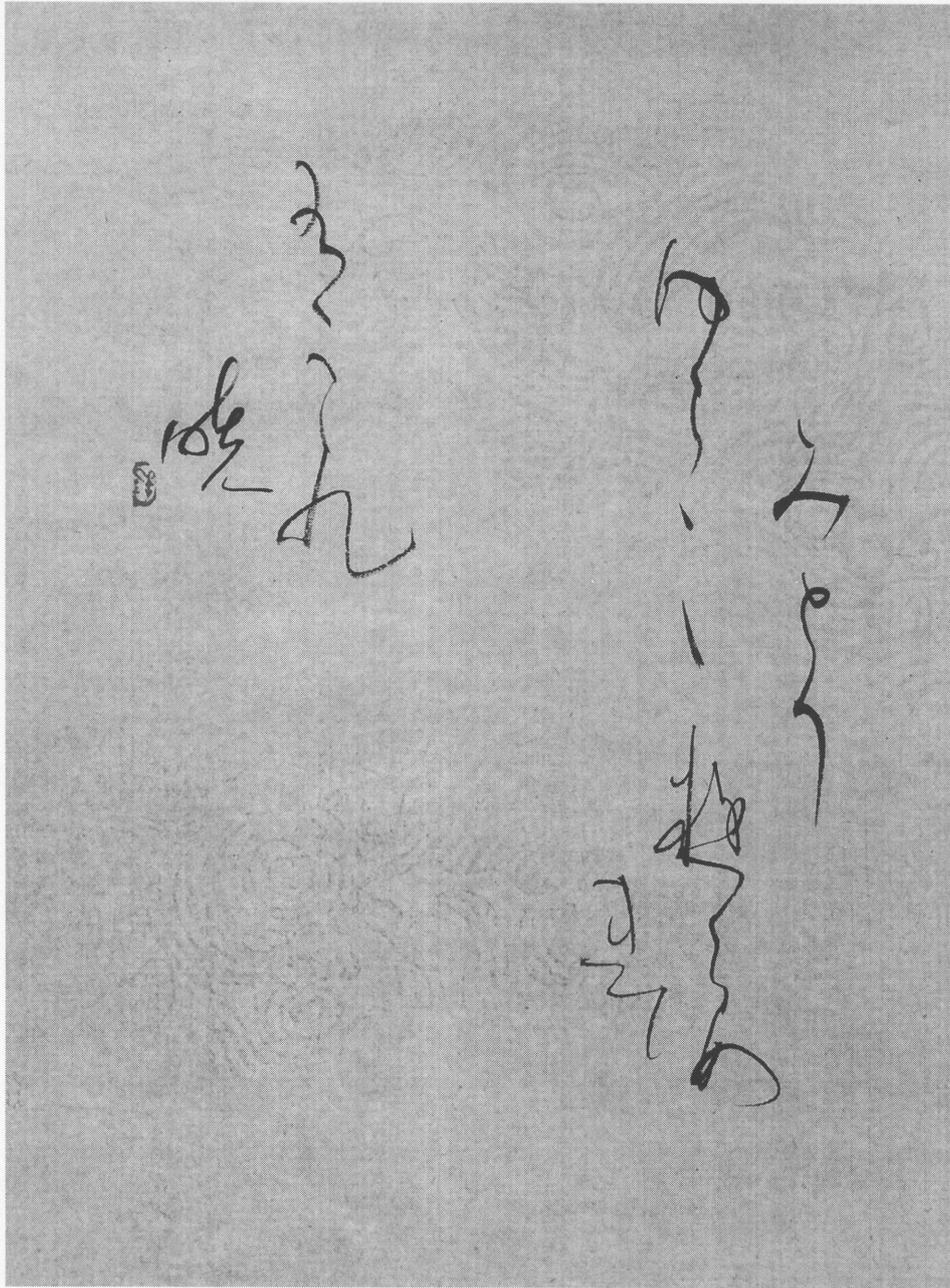
今回は王羲之の楽毅論風にと試みました。微妙な用筆の変化は、運筆に緩急やリズムをとり入れることによって生じます。楽毅論のウ冠は、左側の点の大きさと打ち方によって平勾の起筆も送筆も変化します。

「富」のウ冠の左の点は太く強く、右側のはねは、ひと呼吸して筆を立ててはね返します。

「天」の左払い、払い出しの少し前に、かなりの筆圧が加わっています。右払いは、軽く入って次第に筆圧を加えながら三波法で抜きます。

かな規定 初段以上【六月二十日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書



よみ方 みどり／ゆら／ゆ(遊)らめ／きて／う(有)ごく(久)暁

創作

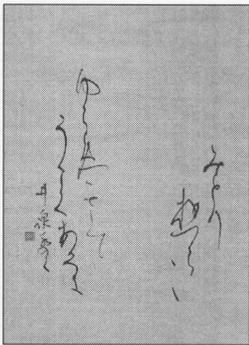
### 習い方解説 (二)

下谷洋子

みどりゆらゆらめきて動く暁

(荻原井泉水)

緑の美しい季節です。自由律俳句独特の、言葉のリズムがきれいな句ですね。みどりもかなになると本当に揺らめいてくるから不思議です。俳句は短歌より文字が大きくなるので、筆もやや大きめ、執筆の位置も少し高めの方が書きやすく、筆力も出るでしょう。筆力といっても、ただ強いだけでなく弾力のある線が理想です。そこに、その人の呼吸が現れるときにリズムを感じさせ、線は生きてきます。

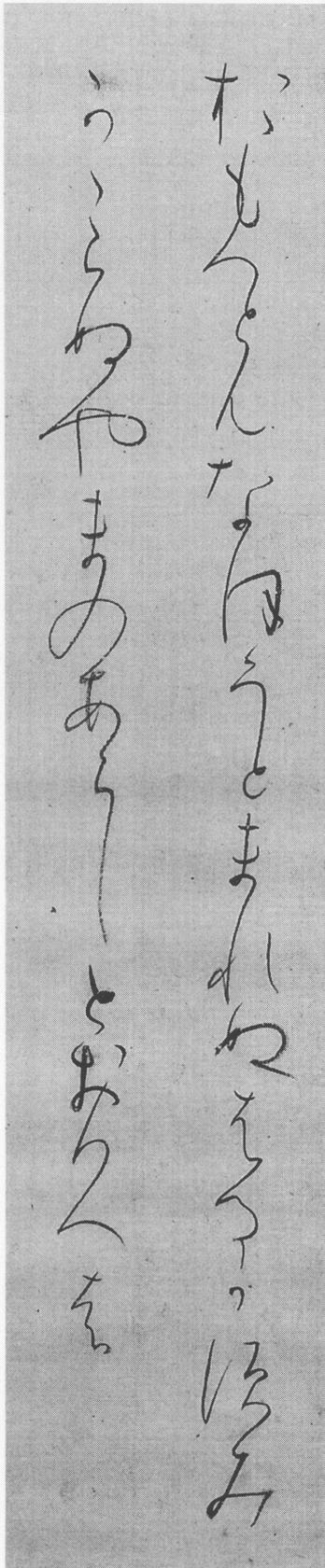


よみ方 みどり／ゆ(遊)ら／ゆらめ／きて／う(有)ごく(久)あか(可)つき(支)井泉水のく(久)

かな規定 秀級以下 【六月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ12 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連続)を臨書する。

高野切第三種



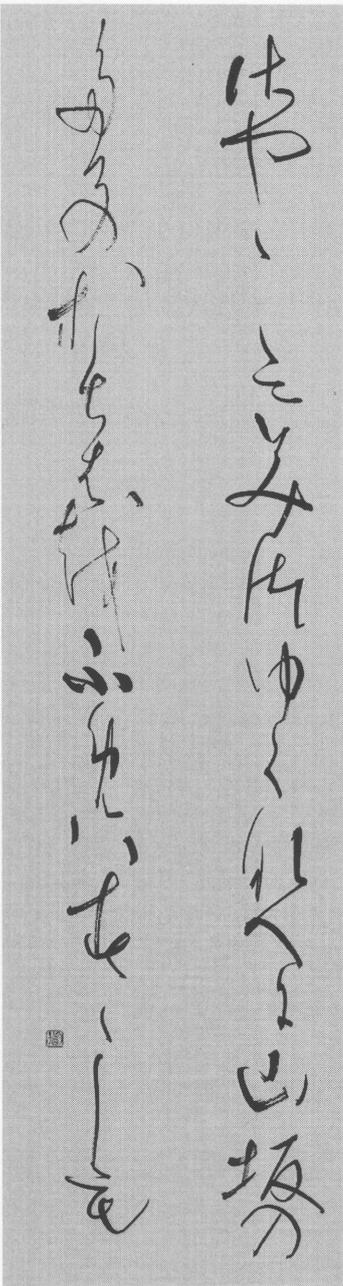
よみ方 お(於)もへども(无)なほ(保)うとまれぬは(者)るが(可)す(須)み  
か(可)くらぬやまのあらじとおも(无)へば(者)

習い方解説 (二)

石井明子

かな条幅規定 【六月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

石井明子選書



よみ方 さ(佐)や(也)さ(こ)や(こ)に(二)み(美)づ(徒)ゆく(久)な(那)べ(へ)に(尔)山坂の  
た(多)け(介)のお(於)ちば(者)を(越)ふめ(免)ば(八)す(春)ず(こ)しも(毛)

創作

さやさに水行くなべに山坂の  
竹の落葉を踏めば涼しも  
(長塚節)

条幅に短歌一首を二行に書く参考であることを意識しました。変体かなの基本を学習してれば読めること、歌意に添う表現であること、字の大きさや墨量が控えめであること等を心がけました。結果として静かな雰囲気になり、どこか華やかさが漂うところまでを目指したいと思います。羊毛といたちが半々の筆を使いました。

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【六月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

孤帆遠影碧空盡  
唯見長江天際流  
萬城

孤帆遠影碧空盡 唯見長江天際流 (李白)  
(孤帆の遠影碧空に尽き 唯だ見る長江の天際に流るるを)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下【六月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

萩原香扇選書

竹香新雨後  
香扇

竹香新雨後(張籍)  
(竹は香る新雨の後)

書体||自由

### 習い方解説 (二)

種谷萬城

李白の七言絶句「黄鶴樓送孟浩然之廣陵」の後半二句を採りました。三峡を経て湖北省に至ると、長江は川幅も広く、悠然と流れる大河となります。雄大な光景の中に消え行く孤帆、李白のスケールの大きな表現は魅力的です。詩情を味わい、作品は書きたいものです。今月は、素直な筆法の行書で書いてみました。

### 習い方解説 (一)

萩原香扇

雨を含んだ竹のみずみずしさを出せるよう少し濃い墨で太く力強く書いてみました。筆は中鋒の太目。ややかたい羊毛を使用しました。

早朝五時になると、わたしの  
部屋の窓辺にもこのあたりで  
「<sup>カ</sup>アムゼル<sup>ク</sup>」と呼ばれる小鳥が  
夜明けを告げにやってきました。  
さわやかな朝です。 . . . 書

用紙IIはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体II自由

## 習い方解説 (二)

川島舟錦

ペンは鉛筆やボールペンの時より、やや傾斜して持つと、力の入れ方、遅速などによって、線はいろいろ変化し、強弱や太細も自然に出てきます。

上手に書こうとすると、つい手に力が入りすぎて文字が太くなったり、ぎこちなくなったりします。伸びやかに書けなくなります。

枚数を重ねるごとに入っていた余分の力が抜け、慣れるにしたがってリズムにのって書くことができます。気脈を大切に書いてみましょう。

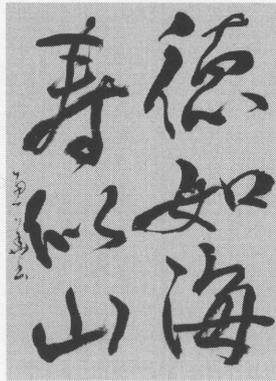
※落款を入れ忘れないようにして下さい。(落款は自分の名前を入れてください。)

ホープロ作品  
各部総評

NO. 550

漢字部 師範 中島 恵華

地味な作品ではあるが練度の高い線に注目した。直、側筆を織り交ぜ、筆の弾力をフルに生かした。  
◎漢字部総評 古典学習の必要性を痛感する。これなくして現代性、創造性と言っても通俗に陥るばかりだ。自戒を込めて。(翠風評)



漢字条幅部 師範 横井 正江

弾力的な厚味ある筆致で三行構成は斬新な気風を見せる。潤渾の変化にリズム感あり。  
◎漢字条幅部総評 上級21文字表現は難しかったか。字を詰めすぎで貧弱な作多し。多彩な取り組みを期待したい。(大雲評)



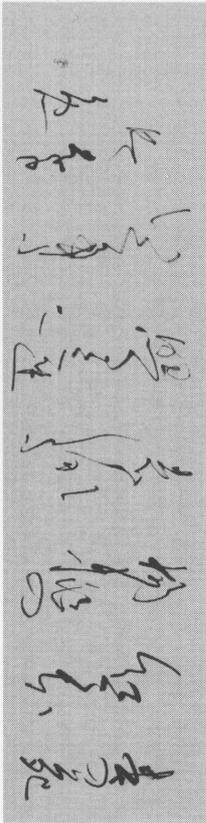
現代詩文書部 特選 工藤 和香

粘度が強く深みのある線はいきいきとし、文字の大小の布置、余白のとり方もよく見事な作である。  
◎現代詩文書部総評 誤字作品散見残念、しっかりと書きこんだ作品の提出を望みたい。(堂光評)



かな条幅部 準師 天野あい子

緊張感みなぎる線で貫かれて、安心して眺められる作品です。控えめさを感じる格調が秀逸です。



前衛書部 特選 金子 美千

宿墨の特長を活すとともに紙面をもうまく使い力感溢れる作。光彩放つ。

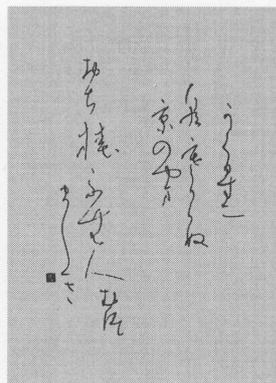
◎前衛書部総評 濃墨、淡墨をうまく利用して鍛練された線質、感性豊かな作品多くなる。(如水評)



◎かな条幅部総評 誤字が多すぎて評価する以前の作品になった人が目立ち残念でした。歌を読み、字を調べて書くこと。(明子評)

かな部 師範 泉水 龍栄

運筆の呼吸に無理がなく、執筆の基本を踏まえているため美しいかなの線です。線情が気持ちよい。  
◎かな部総評 通常かなの作品は印のみ押すことが多いが、名前を入れる時は歌や句と調和する位置、大きさで○○かくです。(洋子評)



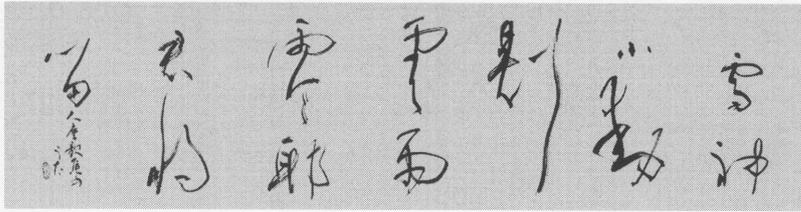
ペン字部 師範 香浦 文江

ペン先がよく利いて、線質に牙えがあります。行間も美しく輝いて見えたえのある秀逸作です。  
◎ペン字部総評 カタカナのみの課題でしたが、出品作品そろって佳作多大。「エ」と「エ」の字の混同が目立ちました。(小扇評)

チーチーチーバカマ

チーガリギヌニチーエボシ  
ヨーモフーケテソーローニ  
カッポンカッポンカッポン  
今果みねをばりの夢より文江書

特別研究部  
優秀作品(特選)



佐藤希雲書

かな

(大雲) 佐藤希雲

「人麿歌集のうた」

- ◆万葉仮名での表現に逆に新鮮な気分を感じさせてくれる作。厳しくいまい込みある線質が明快さを伴って冴えわたる。(大雲評)
- ◆表現に難しい紙に流れるように筆を駆使して変化を出している。もしここで滲みを入れて見るとどうなるか一寸興味を持った。雅印見事。(倫子評)
- ◆かなの原点を思い出させてくれる作品です。力強さと切れのよさが爽やかさとなり心地よい雰囲気です。筆の選択のうまさを感じます。(明子評)
- ◆草がなという造形なのか。懐素の自叙帖を柔らかくしたような線であるが、造形はやはりかな独自の暖か味を感じさせる。(蒼玄評)

現代詩文書

(翠苑) 佐々木豊苑

「村田清零詩」

- ◆詩のリズムを線の太い細いで表現されているのが流れを生み出している者を楽しませてくれる。惜しむらくは印の位置種類一考を。(倫子評)
- ◆濃墨の筆致が生んだかすが自然で美しい。強い筆力が創り出す大きな魅力です。技術点、芸術点共、高得点の立派な作品です。(明子評)
- ◆空間に対する白の取組が鮮やかである。書は空間の美であるが白の空間に黒がしみ込む感じがある。欲を言えば一行目と二行目の関連を。(蒼玄評)
- ◆濃墨のねばりを柔らかい筆致と破筆の効果で生かし、情感溢れる作。余白が美しいリズムを醸し出しているが落款の位置一考されたい。(大雲評)



佐々木豊苑書

総評

現代の合唱曲には書の線と空間に似た響を感じるものがある。ノルウェーのニューステッドという作曲家の宗教曲だが、男女の声が多層的に重なり合い、言葉の意味よりも声そのものの神秘的な荘厳な空間を作り上げている。書も同じで言葉(文字)による表現をのりこえた所に味わったことのない新鮮な驚きと感覚を与えてくれる。

今回は98点(漢21、か13、現39、前24、篆1)であった。表現する技術方法は別であっても何か心に響く作品でありたいと願う。常連も多いが新人の勉強の場でありたい。ふるって出品を!

(蒼玄)

〈特選候補者〉

漢 墨宣	小林 翠芳	現	大雲	阿部 恵泉
漢 玄穹	千葉 紅雪	現	声香	米倉 馨香
漢 華祥	安藤 華祥	現	うる	蜜波羅鳳雲
か 卯月	津田 幸子	前	月華	中塩 朱華
か 蓮紅	千葉 華紅	前	四谷	星野 成美
現 佑希	田中 梢翠	前	四谷	三村 春景

前衛書 (容洲)  
伊勢 聡苑

「早春」



伊勢 聡苑 書

◆流れるような運筆と美しい墨色が見事にマッチして美しい。飛沫が効果的です。印を押すまでが一貫の仕事です。丁寧な。  
(明子評)

◆墨色もよく全体によくまとまっているが、飛沫の状態で全体に広がりうるささを感じる。印の押し方も注意深くしてほしい気がする。  
(蒼玄評)  
◆淀みない墨の流れが大変美しい。体全体の動きを筆に託して紙面を上手に使い一気に動いている。惜しむらくは雅印で流れを切られた感。  
(倫子評)  
◆書き出しの鮮烈な勢いが印象的な作。青淡墨の潤濁が効果的に生かされ、紙面に動きを与えている。中央部も少し整理したかった。  
(大雲評)

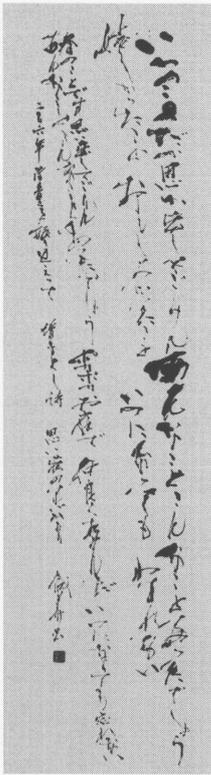
現代詩文書

(うるいど) 篠原 誠華

「思い出のアルバム」

◆遠くから眺めて、墨継ぎが生み出す濃淡が美しく、豊かな気持ちにさせてくれます。墨の色が美しく暖かい詩にぴったりです。印は再考？  
(明子評)  
◆さざ波のような筆致が心地よく響いてくる。二行の群構成で流れも自然であるが二群目のかたまりにポイントがほしい。印は固すぎか。  
(蒼玄評)

◆行の流れの美しさとリズム感がまず眼につく作。茶淡墨の柔和な線がやや細身の鋭さと調和して情感豊かな作。やや不正確な文字が気になる。  
(大雲評)  
◆心に一杯ある思い出を筆に託して書いて行く。それを息を止めずに読む鑑賞者も同じ境地に立った思いを感じる程の強さがある。  
(倫子評)



篠原 誠華 書

漢字

(大雲) 長島 儂雨

「春風致和」



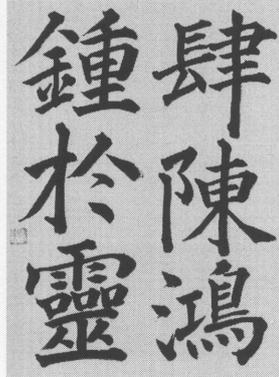
長島 儂雨 書

◆たっぷりと豊かな筆致が広がりを感じさせて明快である。墨色がやや甘く平板な線質に感じる。落筆の高さがあれば更に立体感を出せたか。  
(大雲評)  
◆ドーンとぶつかって来る強い春風。半折に四字と言う変化のない句を筆が起す動きに表現して大きな表現を出してくれ見えて楽しい作。  
(倫子評)  
◆太鼓を打つように重量感のある線で全体をまとめている。風の濁筆が軽やかさを出しているが最後の字にも軽やかな線がほしかった。  
(蒼玄評)  
◆一字ずつの安定よく、布置も揺るぎなく見応えのある作品です。これに、眩しすぎない光、軽薄でない軽みを望むのは、私の欲張りか？  
(明子評)

漢字研究部  
(孟法師碑)

選評 小林 琴水

今月のホープ作品



濱野 琴爽

漢字研究部 特選 濱野 琴爽  
筆さき利かせて線強く、ゆったりと豊かな臨書。正しい用筆、一点一画、着実な運筆は見事。さらに線の深さを……。  
◎漢字研究部総評 きりっとした中に、ふんわりとした暖かみがあり、きめ細やかで、しなやかである。  
流麗な孟法師は、法帖をながめていると、

自然と筆を持ちたくなる様な気持ちにさせられる。起筆の角度には特に注意したい。本号にもありましたように原本を見て臨書することは非常に大切である。何度も何度も書いていくうちに、その都度、違うところが見えてくるものです。

陳鴻鍾  
於靈壇

廣開衆妙懸明鏡  
於講肆陳鴻鍾於靈壇著錄之侶升堂者

之侶  
升堂

廣開衆妙懸明鏡  
於講肆陳鴻鍾於靈壇著錄之侶升堂者比跡問

陳鴻鍾  
於靈壇

侶升堂  
者比跡

爽 皓 琴  
陽 泉 風  
與 祐 彩  
子 炎

成羣  
雖列

廣開衆妙懸明鏡  
於肆陳鴻鍾於著錄之侶升堂者比跡問道之客及門者成羣雖列

陳鴻鍾  
於靈壇

懸明鏡  
於講肆

陳鴻鍾  
於靈壇

陳鴻鍾  
於靈壇

溪 箕 麻 城 皓 靜  
泉 城 美 園 蓉 子

之侶升  
堂者

陳鴻鍾  
於靈壇

錄之  
侶升

廣開衆  
妙懸明

廣開衆妙懸明鏡於講肆陳鴻鍾於靈壇著錄之侶升堂者比跡問道之客及門者

及門  
者成

澄 山 妙 正 光 祥  
仙 房 邨 江 彩

升堂者  
比跡

成羣  
雖列

廣開衆  
妙懸

之侶升  
堂者比

廣開衆  
妙

著錄  
之侶

吉 美 惠 尚 美  
樹 鈴 子 子 佐 子



# 出品券

## 6月20日締切

### 計報

金子 魯空先生

(財)書道芸術院  
参与会員

前衛書部・審査会員

平成19年3月28日逝去されま  
した。享年84歳。



謹んで哀悼の意を表し、  
ご通知申し上げます。

訂正

552号(4月号) 6ページ  
平成18年度新審査会員作品  
中川紅蘭(●大分) ↓ (正福島)  
右記の通り訂正し、お詫びい  
たします。

歴代の名句二百句を、  
最先端の作家四十七名が多彩な作品にします

響きあう

上巻 近世から明治生まれの俳人  
下巻 大正から昭和生まれの俳人

## 俳句と書 全二巻

俳句を書くためのヒント満載!

金子 兜太 監修

村上護・日本詩文書作家協会編

内容見本進呈



- ・短冊から大作まで、全ての作品形式を網羅。
- ・見開きで二句を掲載、俳句には総ルビ。
- ・俳句評論家村上護による解説。
- ・書家による作例図版と作品解説。
- ・巻末には時代順俳人解説と俳人索引。
- ・用具に関する基礎知識。

辻元大雲先生書・種田山頭火句



全二巻ご購入の方に  
特製はがきプレゼント  
(2007年9月末まで)

詳細は本に挿入された  
はがきをご覧ください



各 2,625円 (税込み)

ご注文は天来書院まで

天来書院 〒140-0001 東京都品川区北品川1-13-7 長栄ビル7F  
☎03-3450-7530 FAX03-3450-7531 <http://www.shodo.co.jp/tenrai>

※詳しいことは、(財)書道芸術院事務局まで

### 予告

◇6月号の課題

漢字規定(初段以上)

竹夜清疏

漢字規定(秀級以下)

気新光照

かな規定(初段以上) 半紙(料紙可)

夏の夜も小笹が原に霜ぞおく  
月の光のさえしわたれば

(西行)

かな規定(秀級以下) 料紙(書切筆福)

「つくばねのこのもかのものにたちぞよ  
るはるのみやまのかけをこひつゝ」  
のうたを全臨または、部分(二字以上  
の連綿)を臨書する。

かな条幅規定(料紙可) 漆を形式に臨書

六月や峯に雲おくあらし山  
(松尾芭蕉)

漢字条幅規定(初段以上)

問余何意棲碧山  
笑而不答心自閑(李白)

漢字条幅規定(秀級以下)

泉香而酒冽  
(歐陽修)

ペン字規定

チロル地方その他に見られる  
点在した農家と牧場のある  
風景は、だれもが目にする  
美しさです。

ウィーンの風より

表紙写真 「顔氏家廟碑」

規定部

553. 6月20日締切

漢字

553. 6月20日締切

かな

553. 6月20日締切

漢字条幅

553. 6月20日締切

かな条幅

553. 6月20日締切

ペン字

553. 6月20日締切

現代詩

553. 6月20日締切

前衛

研究部

553. 6月20日締切

漢字研究

553. 6月20日締切

かな研究

のりしろ

(553)特別研究作品

出品該当部門に赤○印

漢	か	現	篆	前	支局・支部名
					題名・釈文
					氏名

第59回 全国学生書道展規定 抜萃

●全国学生書道展指導者作品展示

一、会期 平成19年7月28日～8月3日  
二、会場 東京都上野公園内 東京都美術館

一、募集作品 書写、書道作品、書体文句は自由  
二、参加資格 第一部(幼稚園児・小学生) 第二部(中学生) 第三部(高校生) 第四部(大学・専門学校学生)  
※個人の参加は認めない (ただし、10点以上ならば可)

一、種類 毛筆、硬筆、ほか  
半紙(たて34×よこ25センチ)  
※注意 美濃判は受け付けない

一、参加料 一単位……(10点) 五、〇〇〇円(一単位五〇〇円)

一、参加要領  
(ア)参加は一単位(10点)以上とし、何点でも参加できる。  
(イ)一人何点(一枚を1点という)参加してもよいが、同一人の作品はクリップなどできとめておく。  
(ウ)作品は、裏打ちや表装などはしないこと。用紙は、じょうぶなものを用いること。  
(エ)各学校や塾の参加責任者は、本連盟で定めた出品目録用紙を使用して、作品といっしょに提出すること。

(オ)参加作品には、表面に、校名・学年・生徒氏名を記入する他、学校・塾の代表番号を記入する。  
(カ)代表番号は、出品予定の通知をくださった団体に指定、通知いたします。  
一、締め切り日 平成19年6月8日(金)

一、賞(個人賞)  
一、全日本学校書道連盟大賞  
二、全日本学校書道連盟準大賞  
三、全日本学校書道連盟会長賞  
四、財団法人書道芸術院理事長賞  
五、社団法人全日本書道連盟賞  
六、毎日小学生新聞賞(小)  
七、毎日新聞社賞(中・高・大)  
以上 A賞 副賞 楯  
一、全日本学校書道連盟副会長賞(B賞)  
二、全日本学校書道連盟奨励賞(C賞)  
以上 副賞 トロフィー  
一、特選賞  
二、推薦賞  
三、金賞  
四、銀賞  
五、銅賞  
以上 副賞 賞品  
※くわしい募集規定をご入用の方は、連盟事務局までお申し込みください。

「全国学生書道展指導者作品展」

同じ会場で、教えた者と、教えられた者がいっしょに展示されることよって、より親しみがわく展覧会です。「育てる」ではなく、「共に育つ」ように工夫する。全日本書道連盟では、指導者と子どもが同じように喜び、同じように苦しみ、同じように喜びを味わって成長していくことを心がけています。

○出品者  
●全国学生書道展指導者  
●「書の教室」支部指導者  
●書道芸術院審査会員

○作品 半紙額  
(額内寸50×38以内、縦横自由)  
まくりのまま出品、連盟事務局でまとめて表装依頼します。

○出品料 一人一点一五、〇〇〇円  
(表装料・返送費込み)  
指定の振替用紙にて5月末までに納入してください。

○締切り 平成19年6月8日(金)  
※学生展と同じ

# 特別昇級試験

一、しめきり日 5月20日(日)

春季作品募集は、左記の通りです。

漢字 一種、二種  
かな 一種、二種、三種  
漢字条幅 一種、二種、三種  
かな条幅 一種、二種  
ペン字 一種、二種  
漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

## 二、応募資格

・一人で幾つの部にも応募できる。

・第一種 現在級が優級〜10級、新規

・第二種 現在級が初段〜3級

・第三種 現在級が準師範〜秀級  
(優級以下の方は受験できない)

## 三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は3月号A501号V写真掲載の中から「指定文字数」を臨書。

## 漢字部

第一種(一枚) 半紙Ⅱたて長に使用

楷臨書 九成宮醜泉銘(指定箇所より4文字を臨書)

## 第二種(計二枚)

楷臨書 孟法師碑(指定箇所より4文字を臨書)

行創作 春鳥暢<sup>のつ</sup>歡情<sup>のつ</sup>  
よき春に鳴く鳥の声を聞いて歓楽の情を舒暢する。

## かな部

(半紙Ⅱたて長に使用 料紙可)

・かな部創作は、かな・漢字変更自由。

第一種 高野切第一種 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)

第二種(計二枚) 臨書 和漢朗詠集 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)

創作 若<sup>は</sup>す<sup>る</sup>水<sup>に</sup>う<sup>つ</sup>づ<sup>す</sup>椿<sup>かな</sup>  
(高野素十)

## 第三種(計三枚)

臨書 高野切第三種 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)

臨書 寸松庵色紙 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)  
・たて12.7cm×よこ12.4cmの枠(原寸の大きさ)を半紙に書いて、その中に書くこと。  
・落款は右枠内・外どちらでも可。

創作 別紙を裁断して貼付は不可。  
見<sup>わた</sup>せ<sup>ば</sup>比<sup>良</sup>の<sup>高</sup>嶺<sup>に</sup>雪<sup>消</sup>え<sup>て</sup>  
若<sup>菜</sup>つ<sup>む</sup>べ<sup>く</sup>野<sup>は</sup>な<sup>り</sup>に<sup>け</sup>り  
(平兼盛)

## 漢字条幅部

第一種(一枚) 小画仙紙半切Ⅱたて長に使用

楷または行 創作 楽意<sup>いありせん</sup>在<sup>せき</sup>泉<sup>せき</sup>石<sup>い</sup>  
(呉泰来)

## 第二種(計二枚)

楷臨書 顔勤礼碑(指定箇所より14文字を臨書)

行創作 一<sup>す</sup>聲<sup>せん</sup>啼<sup>てい</sup>鳥<sup>てい</sup>破<sup>しや</sup>春<sup>しや</sup>寂<sup>せき</sup>  
數<sup>すう</sup>點<sup>てん</sup>落<sup>らく</sup>花<sup>は</sup>生<sup>せい</sup>書<sup>しよ</sup>寒<sup>かん</sup>  
(翁朗)

ただ一声鳴いた鳥は春の寂しさを破り、二、三点散りその落花は端々も夕暮の寒さを起した。

## 第三種(計三枚)

楷創作 緑池春暖<sup>ろくちく</sup>欣<sup>しん</sup>魚<sup>ぎよ</sup>出<sup>い</sup>

翠<sup>すい</sup>帳<sup>てい</sup>風<sup>ふう</sup>和<sup>わ</sup>見<sup>けん</sup>鶴<sup>かく</sup>翔<sup>しょう</sup>  
水が解けて緑が生じた池は春で魚が遊泳するのを喜び、みどりのとばりには風やわらかに吹いて鶴が遊んでいる。

行臨書 集王(字) 聖教序 (指定箇所より20字を臨書)

草臨書 書譜 (指定箇所より14字を臨書)

## かな条幅部

小画仙紙半切Ⅱたて長に使用 料紙可

第一種(一枚) 創作 窓<sup>まど</sup>あ<sup>け</sup>て<sup>見</sup>ゆる<sup>み</sup>限<sup>かぎ</sup>りの<sup>はる</sup>春<sup>はる</sup>惜<sup>を</sup>む

第二種(計二枚) 創作 春<sup>はる</sup>の<sup>よ</sup>夜<sup>よ</sup>や<sup>籠</sup>り<sup>い</sup>人<sup>ひと</sup>ゆ<sup>か</sup>し<sup>堂</sup>の<sup>隔</sup> (松尾芭蕉)

創作 たちそむる霞<sup>かすみ</sup>の衣<sup>え</sup>うす<sup>す</sup>けれ<sup>と</sup>  
春<sup>はる</sup>きて<sup>み</sup>ゆる<sup>ゆる</sup>四<sup>よ</sup>方<sup>は</sup>の<sup>山</sup>の<sup>端</sup> (藤原公経)

ペン字部 はがきの大きさ白紙Ⅱたて長に使用、黒インク使用(本文のみ書く)

第二種 楷・行(計二枚) 良寛の書は、自作の詩や和歌を書いたもの、あるいは手紙など、いずれも飄々とした筆致で脱俗の趣がある。

(出典：日本書道辞典より)

## 四、名前のかき方

◎どの部も氏名または名、号を書く。印だけでは失格、特になかな・ペン字は注意のこと。

## 五、受験料

第一種 一、〇〇〇円  
第二種 二、〇〇〇円  
第三種 三、〇〇〇円

◇昇級試験用振替口座、または現金書留で納入。

## 六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇級させる。  
第一種は、最高秀級まで  
第二種は、最高二段まで  
第三種は、最高師範まで

## 七、応募手続

- 1 出品票はバーコード出品券を使用。作品の右下に、一枚毎につける。(三種には三枚つける)
- 2 現段級とは552号(4月号)の段級作品二枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりできとめる。
- 3 支部の方は、名簿形式にします。受付番号をいれ、お送りします。
- 4 個人で受験希望の方は、  
①受験の申し込みをする  
・申し込み先  
〒101-0031 千代田区東神田1-16-1  
7 芝崎ビル三階 佛書道芸術院  
書道芸術編集部・特別昇級試験係(宛)

・80円切手貼付、住所、氏名明記の返信用封筒を同封のこと。  
・(受験番号を記入した個人専用の)応募書類を送付します。  
②送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。  
◎備考  
・受験申込みは、期限が過ぎましたが、受験されたい方は、大至急お申し込みください。  
・応募書類は5月1日以後に発送。

# 競書出品規定

締切日 6月20日  
規定部

部門	段位 位用紙	字	漢	な	か	漢字条幅		かな条幅		ペン字
						秀級以下	初段以上	秀級以下	初段以上	
創	創	創	創	創	創	半切	半切	半切	半切	師範級
(書体自由)	(書体自由)	(楷書)	作	作	作	(料紙も可)	(料紙も可)	(料紙も可)	はがきサイズ	書体自由

●前衛書部 審査委員は現代詩文書部 出品不可  
半紙縦使用に限る、一人一点  
(両部門に出品できる)

●研究部 (審査委員は出品不可)

部門	出品資格	用紙	書体・内容
かな研究	審査委員候補以下 (審査委員は不可)	半紙	掲載の古筆の臨書、歌一首以上を書く、全文も可(掲載部分以外の箇所は不可)
漢字研究	審査委員候補以下 (審査委員は不可)	半紙	掲載の古筆の臨書、歌一首以上を書く、全文も可(掲載部分以外の箇所は不可)

●特別研究部 (審査委員も出品可)

特別研究部	出品資格	用紙	内容
誰でも出品可 (審査委員を含む)	小画仙半切・または70×70センチ以内、縦横自由	漢字・かな・現代詩・篆刻・前衛書の各部門を含んだ創作作品競書 (篆刻は印影に落款を入れて応募)	※各部門を通じて一人一点。刻字は不可

●出品資格 高校生以上  
●月例競書作品出品の心得  
一、締切日必着厳守  
二、月別出品券を貼付していないバーコード券は認めない  
三、月別出品券のコピーは不可  
四、(一)初めて出品のときは「新」  
(二)二回目出品のときは「10」  
(三)〇印は昇級  
(一級上の級を書く)  
(四)「締切後着」・「段級不明」・「課題違反」・「落款なし」の作品は審査対象外とし、氏名を掲載しません。  
※▲印段級誤記入

バーコード出品券についてお願い  
\* 作品からはがれないように、右下にしっかり貼り付けてください。  
\* 月別出品券の部別を間違えないように貼ってください。  
(※ステッカーのりをはがれやすいので、ヤマトのりを使用ください。)  
\* 記入する数字は、  
級位は算用数字 1、2、3...  
段位は漢数字 初、二、三...  
で書いてください。  
\* 級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区  
東神田一―一六―七  
神田芝崎ビル三階

財団法人書道芸術院

電話(〇三)三八六二―一九五四  
FAX(〇三)三八六二―一九五七

お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日～金曜日九時～十七時の間に  
お願いします。(土・日・祝日は休み)

## 送料

一か月の購読部数が  
1部～9部までの一回の郵送料

1部	68円
2部	84円
3部	92円
4部	100円
5部	116円
6部	124円
7部	140円
8部	148円
9部	156円
10部以上	送料免除

平成十九年 四月二十五日印刷  
平成十九年 五月一日発行

定価 一部 六五〇円

編集兼 恩地春洋  
発行人 恩地春洋  
データ処理 株式会社リンクス  
印刷 小沢写真印刷株式会社  
発行所 (財)書道芸術院  
〒101-0031 東京都千代田区東神田一―一六―七  
電話 (〇三)三八六二―一九五四  
FAX (〇三)三八六二―一九五七  
振替 〇〇一五〇四―一三〇五八  
http://www.hins.co.jp/shogai/

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
平成十九年 四月二十五日 印刷  
平成十九年 五月一日 発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第五五三号